

Dominion SX クイック セットアップ ガイド

パッケージ内容

DSX のパッケージに同梱されているものを確認します。パッケージには、次のものが入っています。

- DSX 本体
- ラック マウント キット
- 電源コード 1 本または 2 本 (DSX モデルによって異なる)
- RJ-45 アダプタ (コンソール ポートのループバック テスト用)
- CD-ROM および保証書

入っていないものや破損したものがある場合は、すぐに Raritan 正規販売店までお問い合わせください。

別途用意するもの

箱に入っている装置に加えて、次のものがが必要です。

- Ethernet クロス ケーブル 1 本。DSX をブラウザベースのインターフェースから設定する場合に必要です。
- スル モデム ケーブル 1 本。DSX をコマンドライン インターフェースから設定する場合に必要です。これらのいずれかに加えて、次のものが必要となります。
- 管理デバイスを DSX に接続するための十分な長さのケーブル。接続する各デバイス タイプに必要なケーブルのタイプについては、Raritan の価格表をご覧ください。

工場出荷時の設定値

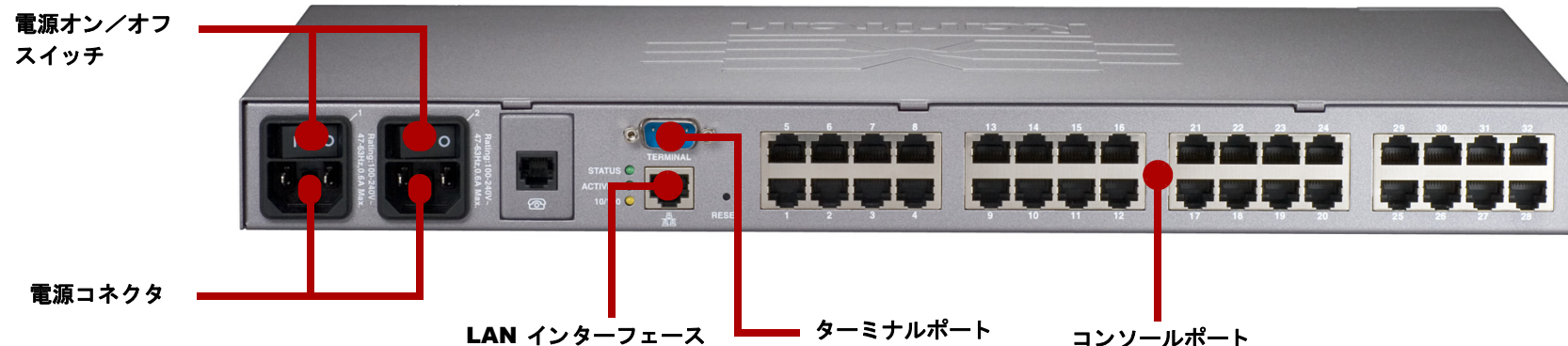
DSX 本体の工場出荷時のデフォルト設定は、次のようになっています。

設定	デフォルト
IP アドレス	192.168.0.192
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.0.192
ユーザ名	admin (すべて小文字)
パスワード	raritan (すべて小文字)
本体の名前	DominionSX

ターゲット デバイスの接続

DSX には、さまざまなモデルがあります。上で示されているモデルには、2 つの電源コンセント、1 つの LAN インターフェース、32 のコンソール ポートが装備されています。ご使用のモデルによって装備内容は異なりますが、以下のインストールの説明には影響しません。

1. 決めた場所に DSX を設置します。ラック マウントが推奨されますが、必須ではありません。



2. 電源コードを DSX の電源コネクタと外部電源に接続します。DSX 本体に電源コネクタが 2 つある場合、2 つ目の電源コネクタはバックアップ電源に接続できます。
3. 電源スイッチをオンにして、DSX 本体の電源を入れます。DSX 本体で、ハードウェアおよびファームウェアのセルフテストが実行されます。ソフトウェアのブートシーケンスが開始し、完了すると緑色のライトが点灯します。
4. ターゲットサーバまたは他のシリアル管理デバイスを、DSX のコンソール ポートに接続します。
 - a. 標準 Cat5 Ethernet ケーブルの一方の端を、DSX のコンソール ポートの 1 つに接続します。
 - b. もう一方の端を、必要に応じて Raritan Nulling Serial Adapter (p/n ASCSDB9F, ASCSDB9M, ASCSDB25F, ASCSDB25M) に接続します。
 - c. アダプタを、ターゲット デバイスのコンソールポートに接続します。

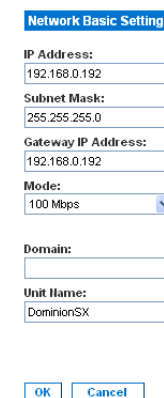
重要な注記 : Cisco や Sun デバイスの多くは、非標準 RJ-45 接続を使用するコンソール ポートが装備されています。ほとんどのデバイスは、「シリアル ロールオーバーケーブル」を使用して接続できます。これは、標準 Ethernet ケーブルでも Ethernet クロス ケーブルでもありません。Cisco および Sun のデバイスに同梱されていたロールオーバーケーブルをなくしてしまった場合は、Raritan から購入可能です (p/n CRLVR-15)。

ブラウザを使用した DSX の設定

DSX は、Web ブラウザまたはコマンドライン インターフェース (CLI) を使用して設定できます。CLI を使用する場合は、このセクションをスキップして、次のセクションに直接進んでください。

1. Ethernet クロスケーブルを使用して、コンピュータを DSX の LAN インターフェースに接続します。DSX に LAN インターフェースが 2 つある場合は、LAN1 を使用します。
 - a. Windows マシンでは、「ipconfig」と入力して表示される IP アドレスを書き留めます。その後、次のように入力します。
`route add 192.168.0.192 <installation computer IP address>`
 - b. UNIX または Linux マシンでは、「ifconfig」と入力して表示される IP アドレスを書き留めます。その後、次のように入力します。
`route add 192.168.0.192 <installation computer IP address> -interface`
 - c. 次を入力します。
`ping 192.168.0.192`
これにより、DSX 本体から応答があります。応答がない場合は、コンピュータと DSX の間の物理的な接続をチェックし、route add コマンドを正しく実行したことを確認してください。
2. コンピュータに、DSX のデフォルト IP アドレス (192.168.0.192) へのルートが設定されていることを確認します。コンソール ウィンドウを開き、route print コマンドを入力します。デフォルト IP アドレスがアクティブ ルート リストにない場合は、次の作業を行います。
 - a. Windows マシンでは、「ipconfig」と入力して表示される IP アドレスを書き留めます。その後、次のように入力します。
`route add 192.168.0.192 <installation computer IP address>`
 - b. UNIX または Linux マシンでは、「ifconfig」と入力して表示される IP アドレスを書き留めます。その後、次のように入力します。
`route add 192.168.0.192 <installation computer IP address> -interface`
 - c. 次を入力します。
`ping 192.168.0.192`
これにより、DSX 本体から応答があります。応答がない場合は、コンピュータと DSX の間の物理的な接続をチェックし、route add コマンドを正しく実行したことを確認してください。
3. ブラウザを開いて次の URL を入力します。
`http://192.168.0.192`

4. ログイン ウィンドウが表示されたら、デフォルトのユーザ名 (**admin**) とパスワード (**raritan**) を入力します。すべて小文字を使用します。
5. デフォルトのパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを変更し、新しいパスワードを使用して再度ログインします。このパスワードを覚えておいてください。
6. **[Setup (セットアップ)]** タブをクリックし、**[Network (ネットワーク)]** をクリックします。**[Configuration (設定)]** ヘッダの下にネットワークが表示されます。
7. **Network Basic Settings (ネットワーク基本設定)** パネルで、DSX に IP アドレス、サブネットマスク、および LAN のゲートウェイ アドレスを設定します。DSX 本体に名前を付けて識別しやすいうにしたり (最大 64 文字。スペースや特殊文字は使用不可)、ドメインを入力することもできます (SMTP メッセージの送信に必要)。



8. DSX はリブートされます。リポートが完了したら、新しいパスワードを使用して再度ログインします。

Dominion SX クイック セットアップ ガイド (続き)

9. [Setup (セットアップ)] タブをクリックし、[Date/Time (日付と時刻)] をクリックします。[Configuration (設定)] ヘッダの下に Date/Time (日付と時刻) が表示されます。
 - a. **UTC Offset (UTC オフセット)** フィールドのドロップダウンメニューからタイムゾーンを選択します。
 - b. 日付と時刻は手動で入力するか、またはネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバの IP アドレス (2 個まで) を入力することもできます。
 - c. 完了したら **[OK]** をクリックします。これで、DSX の時計が設定されました。
10. [Setup (セットアップ)] タブをクリックし、[Port Configuration (ポート設定)] をクリックします。ここで、ターゲットデバイスが接続されている各コンソールポートの設定を行うことができます。
 - a. ターゲットデバイスが接続されているポートの横にあるチェックボックスをオンにします。複数のターゲットデバイスをまったく同じ設定にする場合は、複数のポートを選択できます。
 - b. **[Edit (編集)]** をクリックしてポートの設定を表示し、次の情報を入力します。

設定	説明
Name (名前)	ポートに接続されているターゲットデバイスを識別するための名前
Application (アプリケーション)	ターゲットデバイスとの通信に使用するアプリケーション
Baud rate (ボーレート)	ターゲットデバイスの通信速度
Parity Bits (パリティビット)	パリティチェックに使用するビット数
Flow Control (フロー制御)	データ通信の管理に使用するフロー制御のタイプ
Emulation (エミュレーション)	ターゲットデバイスで使用するターミナル通信プロトコル

- c. **[OK]** をクリックし、他のポートに対しても同じ手順を繰り返します。

これで、Dominion SX が設定され、使用可能になりました。使い方の説明については、このクイックセットアップガイドの「次に行う作業」セクションを参照してください。

CLI を使用した DSX の設定

1. コンピュータを DSX のターミナルポートに接続します。このポートは、2 つの電源コネクタと 2 つの LAN インターフェースが装備されたモデルを除く、すべてのモデルでは DB9 メスポートとなります。これらのモデルには、RJ-45 コネクタが搭載されています。
2. ターミナルエミュレーションプログラムを開き、DSX に接続します。通信パラメータが、9600 bps、パリティなし、8 データビット、ストップビット 1 に設定されていることを確認します。
3. ログインプロンプトが表示されたら、デフォルトのユーザ名 (**admin**) とパスワード (**raritan**) を入力します。すべて小文字を使用します。
4. デフォルトのパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。パスワードを変更し、新しいパスワードを使用して再度ログインします。このパスワードを覚えておいてください。
5. プロンプトで「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**network**」と入力します。
6. DSX に、IP アドレス、サブネットマスク、および LAN のゲートウェイアドレスを設定します。admin > config > network > プロンプトで、次のように入力します。
interface enable true if lan1 ip <ip address> mask <subnet mask> gw <gateway ip address>
7. DSX をリポートするように求められます。「**yes**」と入力してリポートします。リポートが完了したら、新しいパスワードを使用して再度ログインします。
8. admin > プロンプトで「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**network**」と入力します。
9. DSX 本体に名前を付けて識別しやすいようにしたり (最大 64 文字。スペースや特殊文字は使用不可)、ドメインを入力することもできます (SMTP メッセージの送信に必要)。次のように入力します。
name unitname <DSX name> domain <domain name>
10. DSX をリポートするように求められます。「**yes**」と入力してリポートします。リポートが完了したら、再度ログインします。
11. admin > プロンプトで「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**time**」と入力します。
12. admin > config > time > プロンプトで、DSX の日付と時刻を設定します。
 - a. 「**timezonelist**」と入力して、使用するタイムゾーンに対応する番号コードを見つけます。

- b. 次のように入力します。
clock tz <timezone code> datetime <"time string">
ここで、<timezone code> はタイムゾーンコードで、<"time string"> は "YYYY-MMDD HH:MM:SS" 形式 (引用符を含む。24 時間表記を使用) の現在の日付と時刻です。
例:
clock tz 9 datetime "2007-03-15 09:22:33"
12. 「**top**」と入力して、トップレベルのプロンプトに戻ります。次に、「**config**」と入力し、次のプロンプトで「**ports**」と入力します。ここで、ターゲットデバイスが接続されている各コンソールポートの設定を行うことができます。
 - a. 次のように入力します。
config port <port number>
この後ろに、次の表に示すパラメータが続きます。

パラメータ	説明
name <port name>	ポートに接続されているデバイスを識別するための名前
bps <baud rate>	デバイスの通信速度
parity <parity type>	パリティチェックに使用するビット数。none、odd、または even のいずれかを選択します。
flowcontrol <control type>	データ通信の管理に使用するフロー制御のタイプ。none、hw (ハードウェア)、または sw (X on/X off) のいずれかを選択します。
emulation <emulation type>	デバイスで使用するターミナル通信プロトコル。VT100、VT220、VT320、ANSI のいずれかを選択します。

例:
config port 1 name cisco1700 bps 9600 parity odd flowcontrol none emulation vt100
注: 上のパラメータに加えて、次のパラメータも使用できます。
[detect <true|false>] [escapemode <none|control>] [escapechar char] [exitstring <cmd[#delay];>] [dpaip ipaddress] [telnet port] [ssh port]

- b. デバイスが接続されているポートごとに手順を繰り返します。

注: ポートの範囲やワイルドカードのアスタリスク * を使用して、config port * bps 115200 のように指定できません。この場合、すべてのポートの通信速度が 115200 bps に設定されます。または、config port 3-7 bps 115200 のように指定することもできます。この場合、ポート 3 から 7 が 115200 bps に設定されます。

13. 完了したら、**top** をクリックしてトップレベルのプロンプトに戻ります。

これで、Dominion SX が設定され、使用可能になりました。使い方の説明については、このクイックセットアップガイドの「次に行う作業」セクションを参照してください。

次に行う作業

Dominion SX の設定はすべて終了し、ネットワークでの使用が可能なデバイスとなりました。次の作業行ってから、Dominion SX の使用を開始されることをお勧めします。

- **追加のユーザプロファイルおよびユーザグループの作成**
DSX にはデフォルトのユーザプロファイルとユーザグループが出荷時に設定されていますが、追加のユーザプロファイルやユーザグループを作成すると便利です。これを行うと、個々のユーザに異なるレベルの権限およびポートアクセス権を設定できます。設定方法については、ユーザガイドの第 6 章を参照してください。
- **DSX の認証およびセキュリティ機能の拡張**
DSX ではすべてのユーザがローカルで認証されますが、施設内に RADIUS、LDAP、または TACACS+ サーバがある場合は、リモート認証を利用することもできます。どちらの認証方法も有効な場合、リモート認証が優先されますが、リモート認証データベースでユーザが見つからなかった場合は、ローカルデータベースがバックアップとして使われます。
IPTables ファイアウォールルールを作成して DSX へのアクセスを制限したり、SSL 暗号化を設定することができ、さらに Kerberos 保護を実装することもできます。設定方法については、ユーザガイドの第 7 章を参照してください。
- **Raritan Serial Console (RSC) の起動によるターゲットデバイスのリモート管理**
Java 対応ブラウザから RSC を起動し、RSC を使用してリモートでターゲットデバイスを管理および制御できます。使用方法については、ユーザガイドの第 5 章を参照してください。